

## ◆ 平成 29 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 荒川流域ネットワーク

20A-26

代表者：代表理事 鈴木勝行

URL : <http://arakawanet.machisapo.com>

### 1. 活動が必要とされた状況

2006 年から激増した東京湾から遡上してくる稚アユを、アユが成長する入間川水系の各河川の清流域まで遡上させるため、取水堰に魚道等を設置するよう埼玉県に求めてきたが、その提案に対して、2013 年から 3 年間で入間川の川越市と狭山市にある 8ヶ所の堰等に対し魚道等が設置された。設置された魚道の効果検証を行うことで、今後の遡上効果を上げるための改修に向けたデータが必要となった。とくに、最下流に設置された菅間堰の魚道の遡上調査と流量管理作業についてのノウハウを得ることは重要であった。また、現在進めている越辺川水系での魚道設置事業のためのデータ取りとして重要である。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

4 月 1 日から 4 月 29 日まで入間川の菅間堰に設置された魚道の下で四つ手網を使って魚類調査を行うとともに、魚道流量の管理作業を行った。4 月 30 日に 85 名が参加して、稚アユのアブラビレを切除する標識作業を行い、5,079 尾の標識アユを魚道の最下流のプールに放流した。標識放流後も 5 月 14 日までビデオカメラを使った遡上調査も加え、流量管理作業も継続して実施した。

関係する 3 漁協の友釣りや投網の解禁に合わせて、6 月 1 日から 10 月 14 日まで入間川、都幾川、越辺川、高麗川、小畔川の 5 つの河川で、友釣り、投網、刺し網を使った調査を行った。調査回数は、合計 31 回。調査参加者は延べ人数 170 名だった。うち 2 回地曳網を使った参加型の調査も実施した。漁協と釣り人にも情報提供をお願いして、貴重なデータを得ることができた。菅間堰のほか、寺山堰と浅間堰の魚道の遡上補助管理作業も行った。

### 3. 活動の成果

1. 菅間堰下流の四手網を使った調査で、水温の変化に伴う魚類相の推移や稚アユの捕食魚類の生息状況を知ることができた。
2. 菅間堰の魚道の約 2 ヶ月間の調査により、1 日における流量変化と流量調整のための集水や遮水の管理手法についての知見を得ることができた。
3. 入間川に設置された 8カ所の魚道の調査では、その上流側で 2 尾の標識アユの再捕を確認でき、確認数は少ないが、遡上状況を知ることができた。



菅間堰下での稚アユの標識作業の様子。  
(H29 年 4 月 30 日)



入間川の入間大橋での投網による調査の様子。(H29 年 9 月 8 日)

### 4. 今後に残された課題

1. 入間川に設置された魚道の追加調査及び越辺川の出丸堰に設置される魚道の調査。
2. 菅間堰の魚道の改修への提案と継続的な流量管理作業の協力体制の構築。
3. 現在進められている越辺川水系の設置魚道に対する遡上効果調査。